

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり 407

「シリーズ」 あなたの人権・わたしの人権

「気持ちは伝わる」

森中央小学校5年

大垣 純之助

六月四日に「メルヘンの里」の見学をしに行きました。

まず、管理人の人に中でのルールの話を聞きました。それから二グループに分かれて、部屋を一階から二階と見学しました。

一階の部屋には、約十人ぐらいのお年よりが生活しているようでした。二階の部屋にもだいたい同じぐらいの人数のお年よりが生活していました。

ここに住んでいるお年寄りは、グループに分かれていました。それぞれのグループに、「竹とんぼ」や「おはじき」のように昔のおもちゃの名前がついていました。名前のつけ方がおもしろいなあと思いました。

それに「メルヘンの里」では、百才の人が二名いると聞いて、とつてもおどろきました。その百才の人がいつまでも元気ですごしてほしいと思います。

次は、学校でどういうことをすればよろこんでもらえるかを考えました。

まず一人の男子が意見を出しました。

「ぼくは、『ふるさと』という歌を歌った方がいいと思います。わけはメルヘンにいるおじいちゃんおばあちゃんが知っている歌だからです。」と言っていました。

つぎつぎと意見が出て、「ふるさと」という歌に決まりました。

ほくもそれがいいと思いました。なぜかというと、おじいちゃんおばあちゃんが昔から知っているからいいと思いました。

それと話し合った結果、かたたき、「ふるさと」という歌、「生け花ポット」をあげるということをおじいちゃんおばあちゃんにすることになりました。

さつそく歌の練習が始まりました。「生け花ポット」は、ヤクルトのプラスチックのコップで作りました。かたたきするとき、少し歌詞を変えた歌に合わせてたたくことにしました。そして、じゅんぴがかりようしました。

交流する日、ぼくは、うまくできるかなあと思いつながら、「メルヘンの里」につきました。

部屋を見おわって、二階でいよいよ「ふるさと」の歌と、かたたき、「生け花ポット」をプレゼントする時がきました。

おじいちゃんおばあちゃんは、よろこびが顔に出ないと言われていました。

でも、「ふるさと」の歌は、おじいちゃんおばあちゃんがいっしょに歌ってくれました。

かたたきするとき、おばあちゃんは、目をつぶっていました。なので、気持ちいいのかなあと感じました。

しました。

かたたきが終わって、「生け花ポット」をプレゼントする時に、「いつまでも元気であってください。」と、声をかけました。

そして、おばあちゃんは、しゃべってなかつたけど泣きました。なので、ぼくも泣きそうでした。泣いてくれたから、ぼくは、この気持ちが伝わったんだなあと思いました。

やさしさや思いやりは、言葉や表情、手ぶりなどからちゃんと相手に伝わるんだなとわかりました。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届ください。

